



ウクライナ危機 における思春期 の女の子たち

ウクライナ、ポーランド、
ルーマニアからの声

要約

概要報告

本報告書は、プラン・インターナショナルの調査シリーズ『危機下の思春期の女の子たち』の一部であり、長期化する危機における10～19歳の思春期の女の子の声と経験を捉えたものである。本シリーズは、危機的状況に対する彼女たちの声や認識を増幅させ、国際社会の対応方法に関する彼女たちの意見の提示を目指すものである。

本報告書は、2023年8～10月にウクライナ、ポーランド、ルーマニアで、思春期の女の子135人、思春期の男の子36人、思春期の若者の保護者30人、主要な関係者15人を対象に実施された調査から得た知見をまとめたものである。報告書全文はこちら。

調査拠点



本報告書で使用している名前は全て仮名である。本調査中、写真撮影は行なわれていない。本報告書の写真に登場する人物は、本調査への参加者とは異なる。



女の子たちが私たちに伝えてくれたことは何か？

- 必要とする**心理的ケア**を受けることが極めて難しい。



ウクライナ、ポーランド、ルーマニアの思春期の若者たちからは、紛争体験による非常に強いストレスや不安、睡眠障害、情緒不安定などの心理的影響の長期化が認められる。極めて重要な専門家のメンタルヘルスサービスへのアクセスについては、重大な隔たりがあることが3カ国すべての思春期にある若者とその保護者たちによって、報告された。なかでも、無料で受けられるサービスの認知とアクセスが非常に限られていることが特に強調された。

時々、この紛争が外だけのことでなく、私の頭の中にまで入り込んでるように感じます。

Olesya、女の子、15-19歳、ウクライナ

- 戦闘状態にある紛争とジェンダーに基づく暴力(GBV)のために、女の子たちは**危険を感じている**。



ウクライナ全土の思春期の女の子たち全員が日々、空爆のリスクに直面するなか、前線近くに住む女の子たちの安全上のリスクが高まっている。ポーランドとルーマニアでは、難民の思春期の女の子が、ネット上でも公共の場でも、憂慮すべき確率で性的ハラスメントや暴行を経験していると報告している。こうした彼女たちが経験したGBVが、まるで普通のことのように見えるほど高いレベルで発生している。

「暴力事件のことを聞くので、一人で外を歩くのは怖いです。」

Jisu、女の子、10-14歳、ポーランド

➤ **教育の中断による長期的な影響は、思春期の若者とその保護者にとって大きな懸念である。**



2020年のCOVID-19パンデミックによって教育が中断されたが、ウクライナの生徒たちは、今年度で5年連続学校に通えていないことになる。思春期の子どもとその保護者は、この長い中断が及ぼす長期的な影響と今後の学業と雇用機会へ及ぼす影響について、ますます深い懸念を募らせている。オンライン授業は、ウクライナの多くの子どもにとって、依然、安全保障上の必需品であるが、思春期の子ども若者たちは、この学習方法で深刻な問題を経験していることが報告された。国境を越えて避難してきた子どもにとって、現地の言語習得の難しさは学業達成の大きな障壁となっている。

「避難していた数ヶ月間、学校に通うことができなかったわ。ノートパソコンもネットもなかった。私たちはすべてのものを置いてきて、何も持っていなかったから。」

Hanna、女の子、15-19歳、ウクライナ

「ポーランドに来てから成績がとても悪いです。特にポーランド語を一生懸命勉強していますが、成績は全てFです。」

Alexandra、女の子、10-14歳、ポーランド

➤ **女の子たちは、包括的性教育と低価格で受けられる質の高い性と生殖に関する保健サービスへのアクセスを可能にする支援を必要としている。**

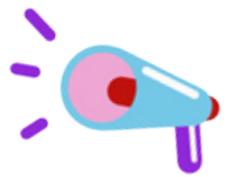


性と生殖に関するタブーや誤情報は、ウクライナの紛争が激化する以前から存在していた。性教育はオンライン授業によって更に制限されている。多くがネットで情報を探しているが、低価格で受けられるSRHRサービスや性と生殖に関する健康(SRH)の適切な情報を得る場所を知らない、と調査対象全3カ国の思春期の若者が回答している。

「SRHRは生物の授業のテーマのひとつでした。しかし、私たちの先生はこの部分をとばしました。ほとんどの先生は、生物学の授業中にごく限られた情報を与えることさえ避けています。」

Yuliya、女の子、15-19歳、ウクライナ

➤ **紛争は女性たちにジェンダー別に決められた伝統的な役割を押し付けることになってしまうが、同時に新しい役割を挑戦させる機会にもなっている。**



紛争によって通常の家生活が混乱したことで、伝統的に女の子が担ってきた人の世話という役割が、女の子たちにさらなる負担を強いている。だが、伝統的なジェンダー意識に挑戦し、女性が世帯主、意思決定者、稼ぎ手となる能力も実証された。

「...今では、多くの男性が前線に行き、市民生活の大部分は女性に委ねられています...そしてこのことは、女性が自らの自立と行動力に気づくのに役立つと思います。」

Emiliya、女の子、15-19歳、ウクライナ

➤ **思春期の若者は、より包括的なウクライナの再建に貢献したいと考えている。**



戦後の復興という現実的な問題にとどまらず、精神衛生、教育、そして多様な人々が活躍できる、より包括的な社会づくりを優先したい、とウクライナの思春期の若者たちは考えている。意思決定プロセスから排除されがちな思春期の女の子たちが、ウクライナの復興を形作る上で果たすべき重要な役割を担うことが証明された。

「より社会的な受容が進み、互いに対する偏見が少なくなる未来を願います。」

Oleksa、女の子、15-19歳、ルーマニア



結論と提言

思春期の若者たちが決意とレジリエンスを持ってこの危機を乗り越えようとしていることが、調査によって明らかになった。そして、メンタルヘルス、SRH、教育において非常に重要で質の高いサービスへのアクセスに基本的な欠落（不足、欠如）があることもわかった。紛争と避難を経験したことによる多くのストレスと不安への対処だけでなく、思春期の女の子たちは身の安全への脅威や驚異的な頻度の性的ハラスメント、壊滅的な学習機会の損失、社会的孤立、適応への課題、大人の責任を背負わされることによる思春期中断など、さまざまなストレス要因にも直面している。ウクライナの思春期の女の子たちは、紛争に耐えるためだけでなく、安全で健康的で、より平等な未来を築くために何が必要かを知っている。それゆえに、彼女たちを意思決定プロセスに参加させなければならない。



以下の提言は、女の子たちの優先順位に基づく

提言の全リストは本編報告書を参照のこと。

ウクライナ、ポーランド、ルーマニアにおいて:

- 国及び地方自治体と連携するドナー（支援国及び支援機関）は、**子どもの保護、教育、保健システムのレジリエンスを強化すべきである。**
- 国と地方自治体は、ドナー（支援国及び支援機関）の支援を受けて、思春期の若者とその保護者のために、ウクライナ語とロシア語で**自由に利用できるメンタルヘルスと心理社会的支援(MHPSS)サービスを早急に拡大**すべきである。MHPSSサービスに対する人びとの認識を高めるため、ソーシャルメディア上で**広範な多言語による情報キャンペーン**を実施すべきである。
- 地方教育当局は、国の教育省や地方教育サービス提供者の指導を受けながら、特に遠隔地での深刻な学習機会の損失に対処するための**地域別戦略**を策定し、思春期の若者の社会化スキルや社会的結束力を向上させるための**対面活動**を提供する必要がある。これには、ウクライナの学齢期の子どもがウクライナの正式な教育制度に再統合できるよう、移行経路を特定することも含まれる。
- 国際ドナー（国際的な支援機関）および国家当局は、ウクライナ国内および受入国における社会的結束のための重要な基盤として、**教育プログラムを支援し続ける**必要がある。
- GBVIに取り組むという公約の一環として、国家当局は**GBV予防をオンライン安全意識向上プログラムにまで拡大**し、思春期の女の子をネット上や対面での性的搾取や虐待、人身売買の増大するリスクから守る必要がある。
- 教育当局は、**包括的性教育、尊重すべき人間関係、GBVの防止**を、学校カリキュラムの標準的な要素として、低年齢時から義務づけるべきである。
- 国の保健・教育当局は、多言語による**包括的性教育へのアクセスを拡大するプロジェクト**やネット、電話、ソーシャルメディア、対面でのSRHR情報への無料かつ秘密厳守のアクセスを拡大するプロジェクトを**支援し、開始すべきである。**
- 国際ドナー（国際的な支援機関）および国家当局は、専用の協議メカニズムの設立を通じたものを含め、すべての意思決定の場において、**あらゆる多様性を持つ思春期の女の子とユース女性の直接参加**を促進すべきである。ロマ・コミュニティ、LGBTIQ+の人びと、障害のあるユースなど、最も疎外された人びとの参加も保証されなければならない。



Until we are all equal

謝辞

本概要報告書は、Scruples Researchの調査に基づき、Jenny Rivettが執筆した。これは、プラン・インターナショナル東・中欧の委託により、以下のプラン・インターナショナルの事務所が寄稿したものである：プラン・インターナショナル・ウクライナ、プラン・インターナショナル・ポーランド、プラン・インターナショナル・ルーマニア、および調査対象3カ国におけるプラン・インターナショナルのパートナーからの寄稿による：ウクライナのSlavic HeartとRuki Druziv、ポーランドのPolish Humanitarian Action (PAH)、ルーマニアのFundatia Națională pentru Tineret (FNT)。

調査に参加してくれた思春期の若者たち、その保護者、NGOやCSOの職員に感謝したい。彼らの貢献なしには、この調査は不可能であっただろう。

Louise Allen, Lawson Brunnock, Yeliena Dudko, Marianne Rowley, Sven Coppens, Camila Mariño, Aya Saeed, Natalia Baitemirova, Dominika Cichocka, Angelisa Diveny, Kristine Anderson, Anna MacSwan, Rilian Agunos, Dr Lucia Rost, Dr Jacqueline Gallinetti, Kathleen Sherwin, Enzo Tabet Cruz, Lindsey Hutchinson, Maureen Fordham教授、そして文献調査に協力してくれたキエフ・モヒラ・アカデミーの社会科学専攻の学生たちの貢献にも特に感謝する。

表紙の写真：ウクライナの国内避難民のための宿泊センターで暮らす姉妹と友人。
クレジット：Albina Vinar © Plan International

写真

イラスト：[Zhenya Oliiynk](#)

デザイン：[Amy Reinecke](#)

コピーエディター：Anna Brown

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利と女の子の平等を推進する独立した国際NGOです。貧困、暴力、排除、差別による抑圧のために、すべての子どもたちが本来持つ能力と可能性を引き出すことができず、その影響を最も強く受けているのは、女の子たちです。

子ども、ユース、支援者、パートナー団体とともに、私たちは公正な世界を目指し、女の子や脆弱な子どもが直面する課題の根本的解決に取り組んでいます。私たちは、子どもが生まれてから大人になるまでの権利を支援し、子どもが危機や逆境への備えと対応力をつけられるよう支援しています。世界規模のネットワーク、と長年の経験に基づく豊富な知見で、地域・国そして世界規模で実践と制作の変革を推進しています。

私たちはこれまで85年以上にわたり、前向きな人びとと連携しながら子どもたちの人生に変革を起こすために80カ国を超える国々において活動しています。

誰もが平等な世界を実現するまで、私たちは歩みを止めない。

Plan International

International Headquarters Dukes Court,
Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

Tel: +44 (0) 1483 755155

Fax: +44 (0) 1483 756505

E-mail: info@plan-international.org

plan-international.org

[Plan International East and Central Europe](#)

Published in 2024. Text © Plan International



facebook.com/planinternational



x.com/planglobal



instagram.com/planinternational



linkedin.com/company/plan-international



youtube.com/user/planinternationaltv